

報告

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和3年9月14日

学校教育課

1 実施概要

- (1) 実施日 令和3年5月27日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数
- ・中学校第3学年：国語、数学

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

イ 質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

2 平均正答率の状況（京都市含む）

	国語		算数・数学	
	京都府	全国	京都府	全国
小学校	68	64.7	73	70.2
中学校	65	64.6	57	57.2

※京都府平均は整数値で示されているため、中学校数学において全国平均を下回っているように見えるが、小数値まで計算すると全国平均以上である。

3 結果の概要

- 小学校、中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均以上である。
- 全国的に見て、臨時休業期間の長さや平均正答率との間には、相関が見られなかった。
- 京都府においては、昨年度の一斉臨時休業中に勉強について不安を感じたと回答している児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。一方、規則正しい生活を送っていた、計画的に学習を続けることができたという回答している児童生徒の割合は、全国に比べて低い傾向がある。
- 京都府においては、授業におけるICT機器の使用について、昨年度は使用している割合が全国に比べて低い傾向にあったが、本年度は使用している割合が全国に比べて高い傾向がある。

4 教科の概要（京都市を除いている。）

○全国と比較して、D層（下位）の割合が少なく、全ての教科において平均正答率は全国並か全国平均を上回っている。

○領域によっては、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

(1) 小学校国語

- ・読むことの領域に課題が見られる。文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできているが、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け（府正答率34.5%）たり、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約（府正答率29.1%）したりすることに課題がある。

⇒図表やグラフなどを含む文章を読む際に、文中の図表が、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができるように指導することが重要。

(2) 小学校算数

- ・他の領域に比べ、図形領域に課題が見られる。直角三角形の面積を求める際、底辺と高さを選択できず、示された三辺の長さをすべて用いて解答（府正答率62.1%）したり、二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述（府正答率48.3%）することに課題がある。

⇒図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導することが重要。

(3) 中学校国語

- ・読むことの領域に課題が見られる。登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文脈の中における語句の意味を理解（府正答率42.0%）したり、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもったり（府正答率22.7%）することに課題がある。

⇒文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが重要。

(4) 中学校数学

- ・図形及び資料の活用領域に課題が見られる。ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する（府正答率28.7%）、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する（府正答率9.8%）ことに課題がある。

⇒条件を変えても、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それらを図や式、言葉を用いて表現する活動の充実、大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが重要。

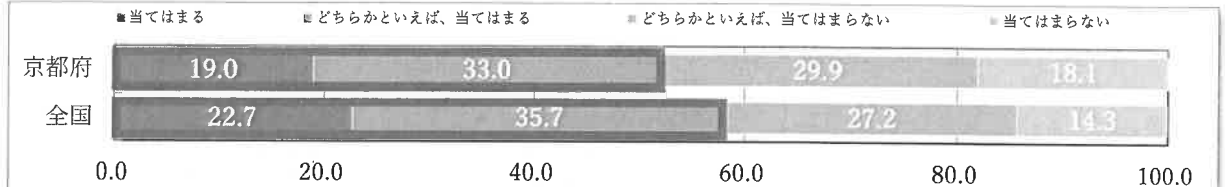
5 児童生徒質問紙調査結果から ※京都府のデータからは、京都市を除いている。

(1) 学ぶ意義について

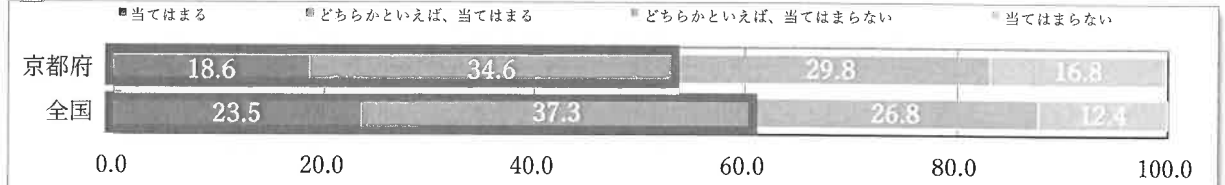
- 「教科の勉強は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国に比べて低い傾向がある。
- 全国的に、算数・数学、英語については、小学校より中学校で肯定的に回答している割合が下がる傾向があるが、京都府ではその傾向がより顕著である。

Q43 国語の勉強は好きですか

小学校



中学校



Q52 算数（数学）の勉強は好きですか

小学校



中学校

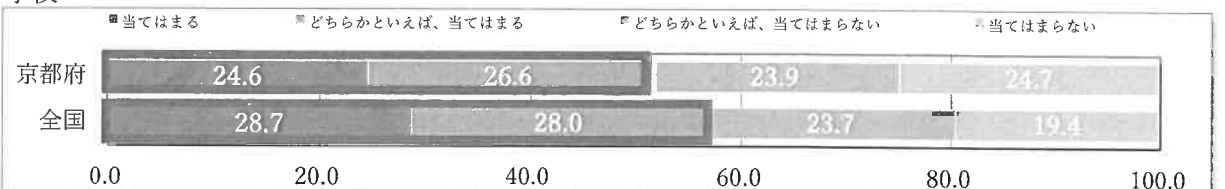


Q61 英語の勉強は好きですか

小学校



中学校



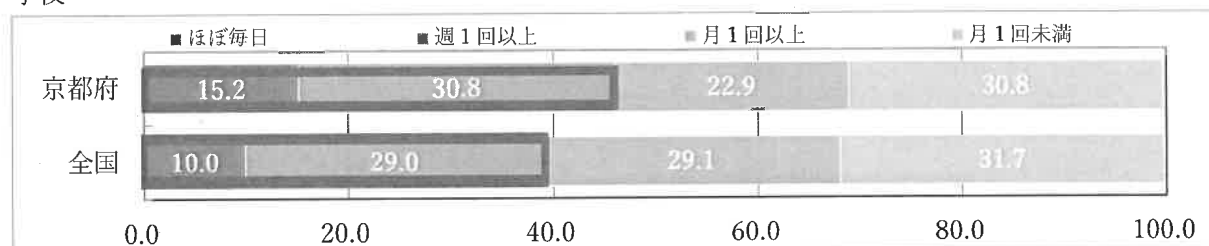
(2) ICT活用について

○学校でICT機器を、他の児童生徒と意見を交換したり、調べたりするために使用している割合は全国に比べて高い傾向がある。家庭での使用も同様の傾向である。

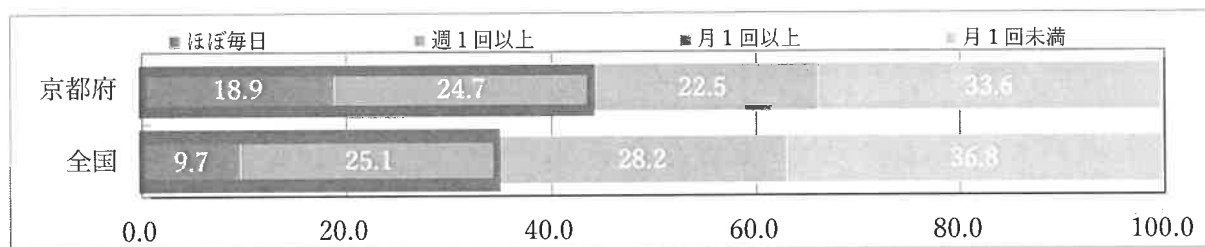
○普段（月曜日から金曜日）、テレビゲームを行う割合は、小学校、中学校ともに全国と比べて高い傾向がある。

Q27 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

小学校

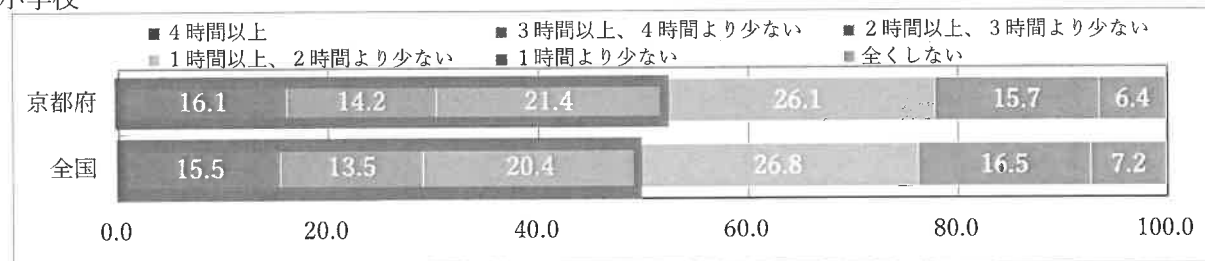


中学校

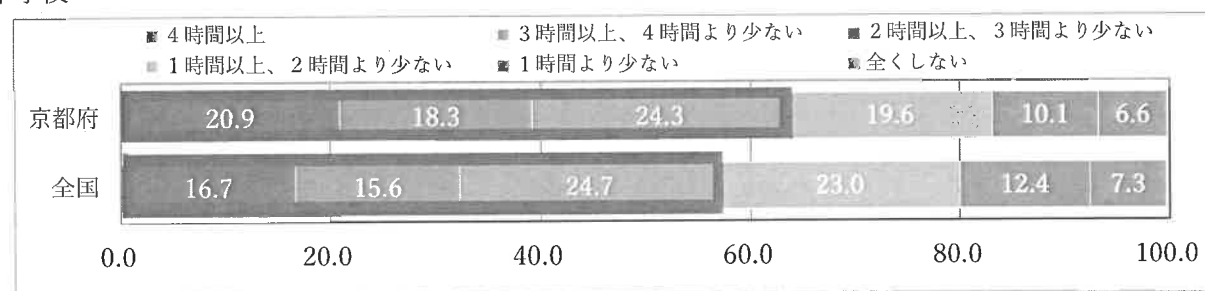


Q5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

小学校



中学校



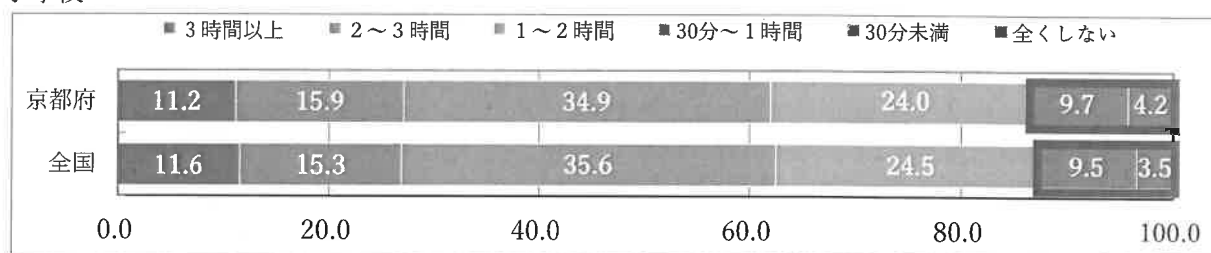
(3) 家庭学習について

○普段（月曜日から金曜日）、家庭で学習する時間について、全国と比べ、小学校は全国とほぼ同じであるが、中学校では低い傾向がある。

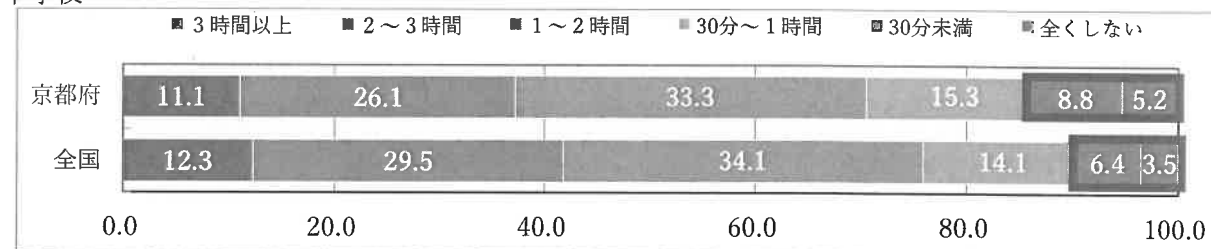
○休みの日に2時間以上学習する割合は、全国と比べ、小学校で－3.9%、中学校で－11.9%と、低い傾向がある。

Q18 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校

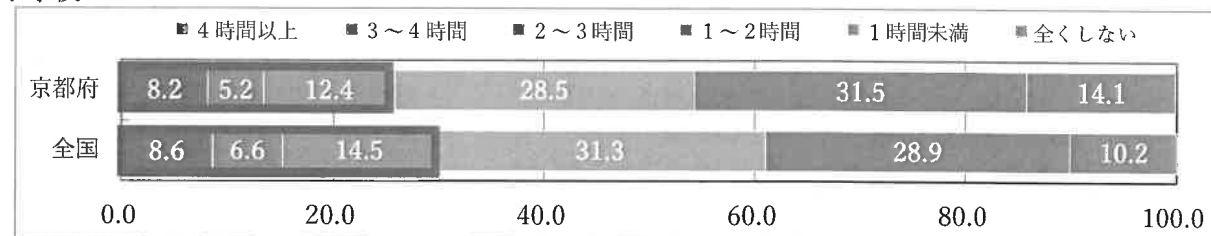


中学校

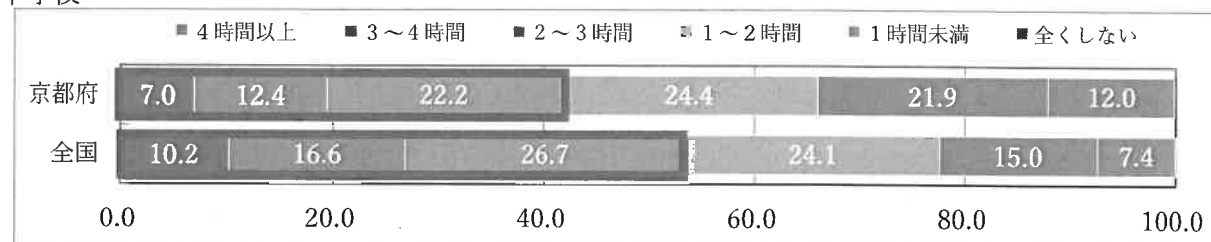


Q19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校



中学校



(4) 自己有用感等について

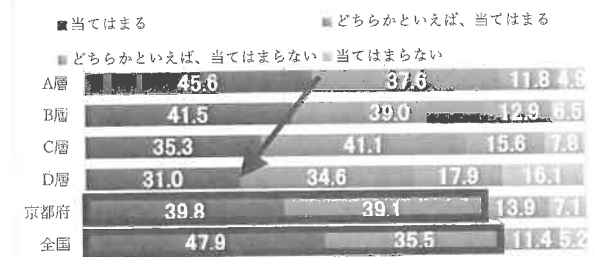
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、全国と比べ小学校、中学校ともに低い傾向がある。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、全国と比べ小学校、中学校ともに低い傾向がある。
- 小学校、中学校ともに、低学力層の児童生徒ほど、学校が楽しいと思わない傾向がある。併せて、小学校では、自分によいところがあると思わない傾向もある。

Q13 学校に行くのは楽しいと思いますか（学力層別グラフ）

小学校国語



小学校算数



中学校国語



中学校数学



Q6 自分には、よいところがあると思いますか（学力層別グラフ）

小学校国語



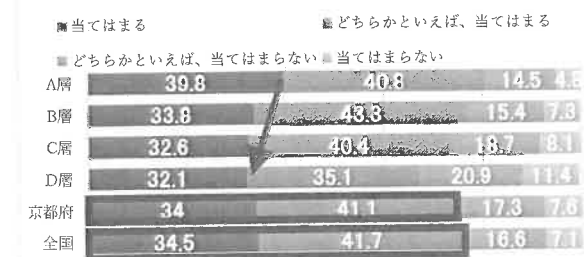
小学校算数



中学校国語



中学校数学



(5) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」、「自分と違う意見について考えることを楽しいと思えますか」、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、小学校、中学校ともに、低学力層の児童生徒ほど肯定的な回答が少ない傾向がある。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対しても同様の傾向がある。

Q37 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか（学力層別グラフ）

小学校国語



小学校算数



中学校国語

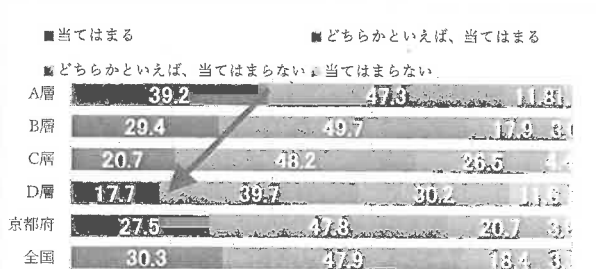


中学校数学



Q33 5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（学力層別グラフ）

小学校国語



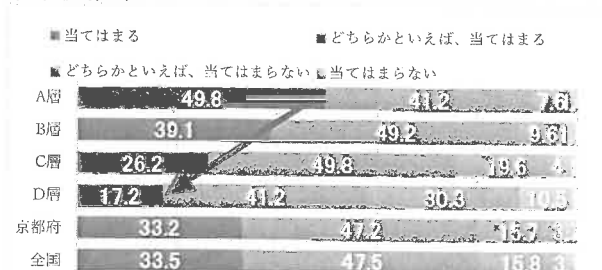
小学校算数



中学校国語



中学校数学



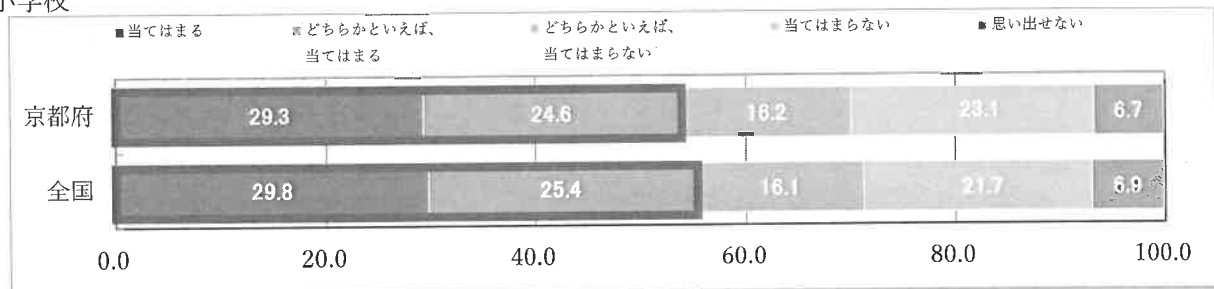
(6) 新型コロナウイルス感染拡大の影響について

○新型コロナウイルスの感染拡大で臨時休業をしていた時期に、勉強について不安を感じた児童生徒の割合は、全国の傾向とほぼ同じである。

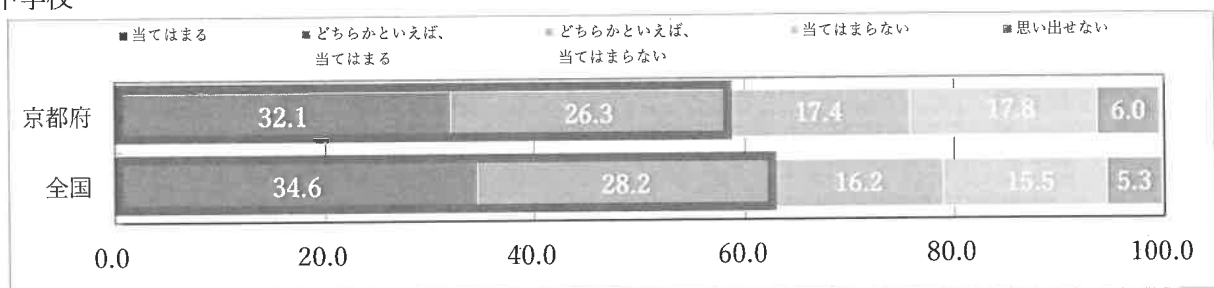
○臨時休業中、規則正しい生活を送っていたと解答している割合は、小学校、中学校ともに全国に比べて若干低い傾向がある。

Q64 令和2年の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、勉強について不安を感じた

小学校

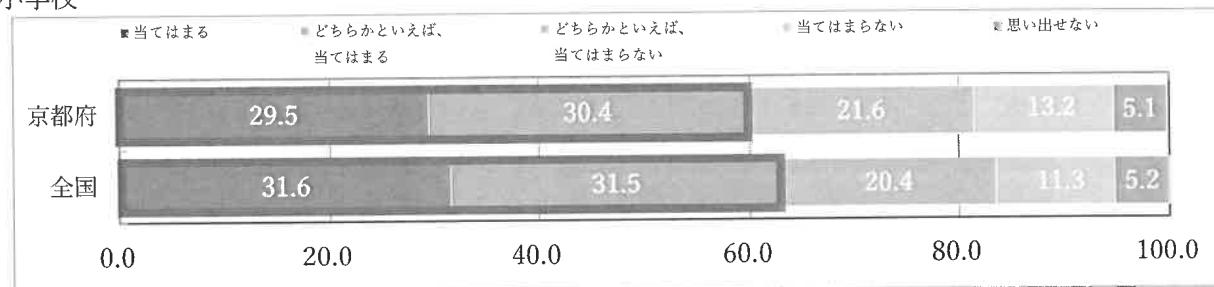


中学校

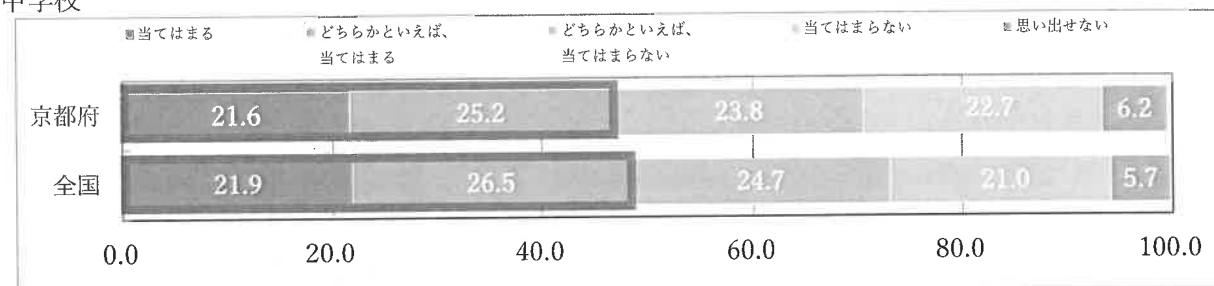


Q66 令和2年の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、規則正しい生活を送っていた

小学校



中学校



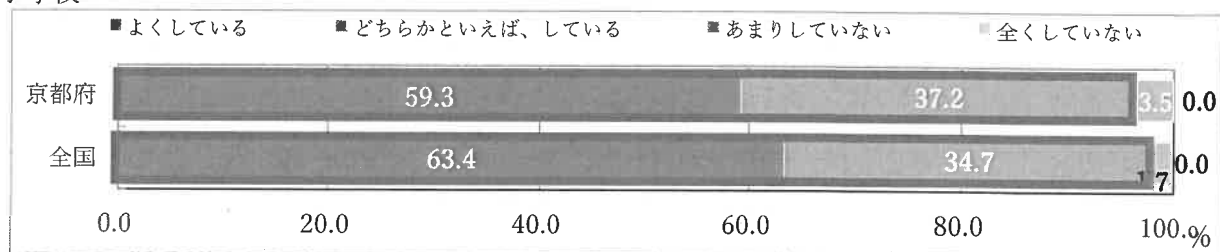
6 学校質問紙調査結果から ※京都府のデータからは、京都市を除いている。
研修について

○授業研究や事例研究等の研修など、実践的な研修を行っている割合は、全国と比べ低い傾向がある。

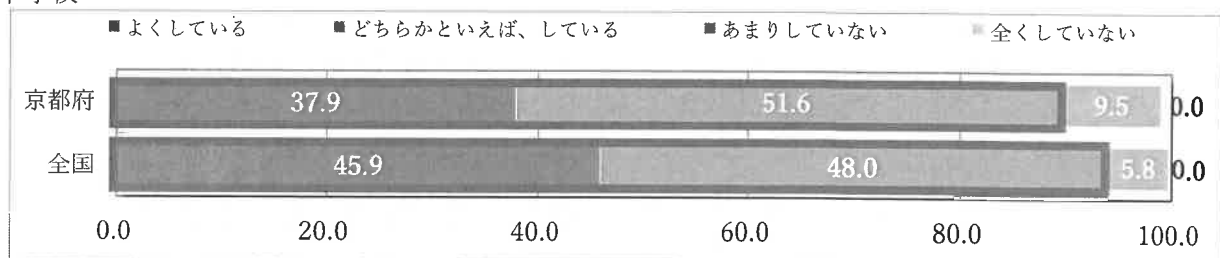
○近隣等の中学校（小学校）と授業研究を行うなど、小中学校が合同して研修を行っている割合は、全国と比べて非常に高い傾向がある。

Q23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている

小学校

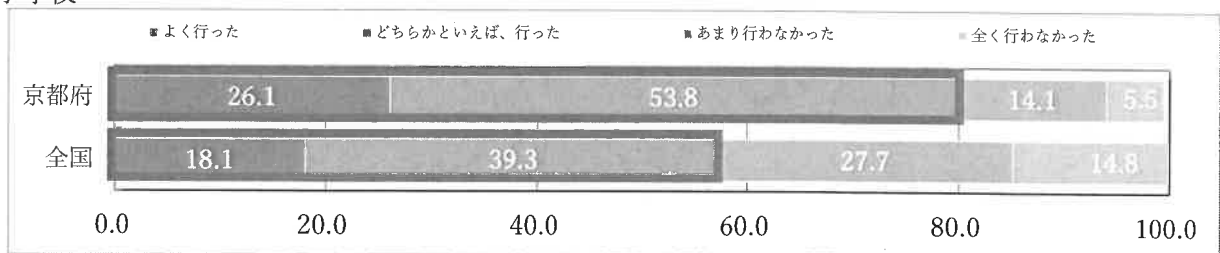


中学校

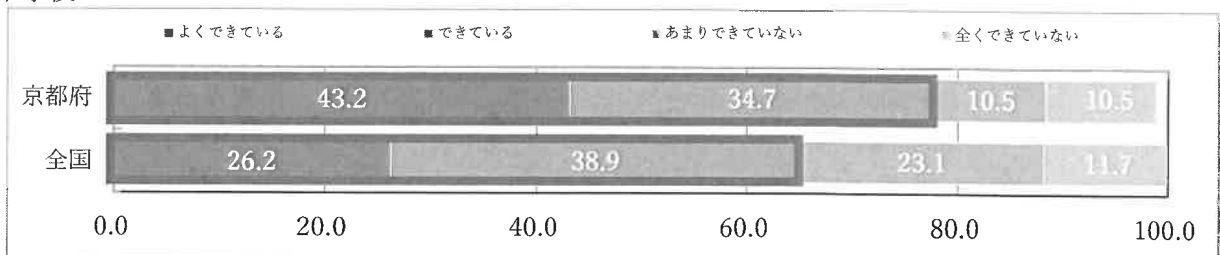


Q78 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか

小学校



中学校



資料

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の教育局別概要について

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 各教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均を上回るかそれに近い値ですが、教科毎にみると一部にやや課題が見られます。

小学校	国語	算数
全国	64.7	70.2
京都府	68	73
乙訓局	69	75
山城局	65	70
南丹局	64	69
中丹局	68	72
丹後局	65	70

中学校	国語	数学
全国	64.6	57.2
京都府	65	57
乙訓局	65	60
山城局	64	56
南丹局	65	56
中丹局	65	55
丹後局	65	57

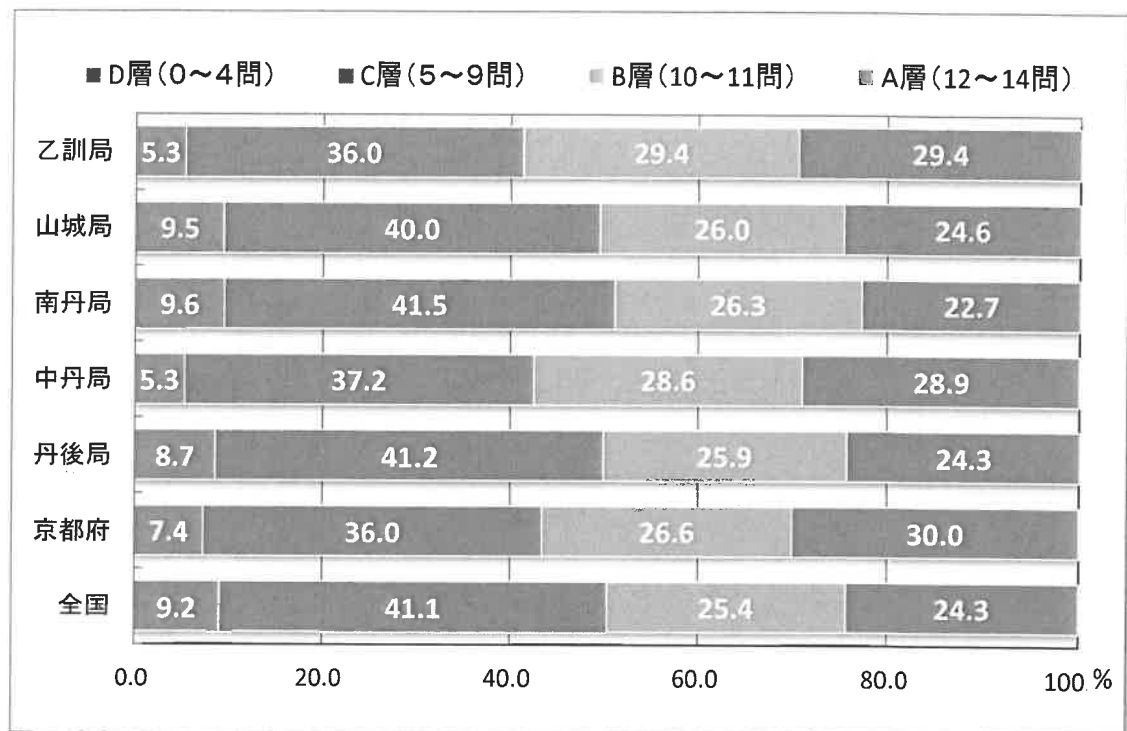
(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層（上位）、B層（下位）、平均正答数未満の児童生徒をC層（上位）、D層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。

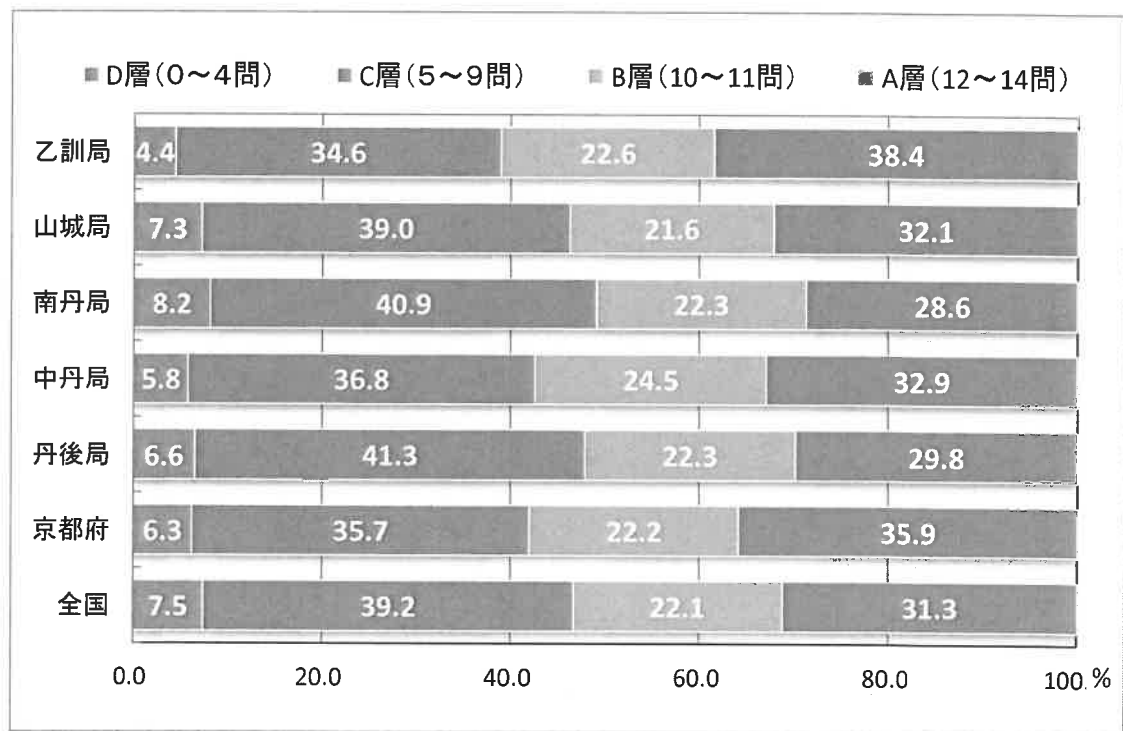
例えば小学校国語Aの出題数は14問あり、全国の平均正答数が9.1問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

◆小学校第6学年正答数分布状況

ア 国語

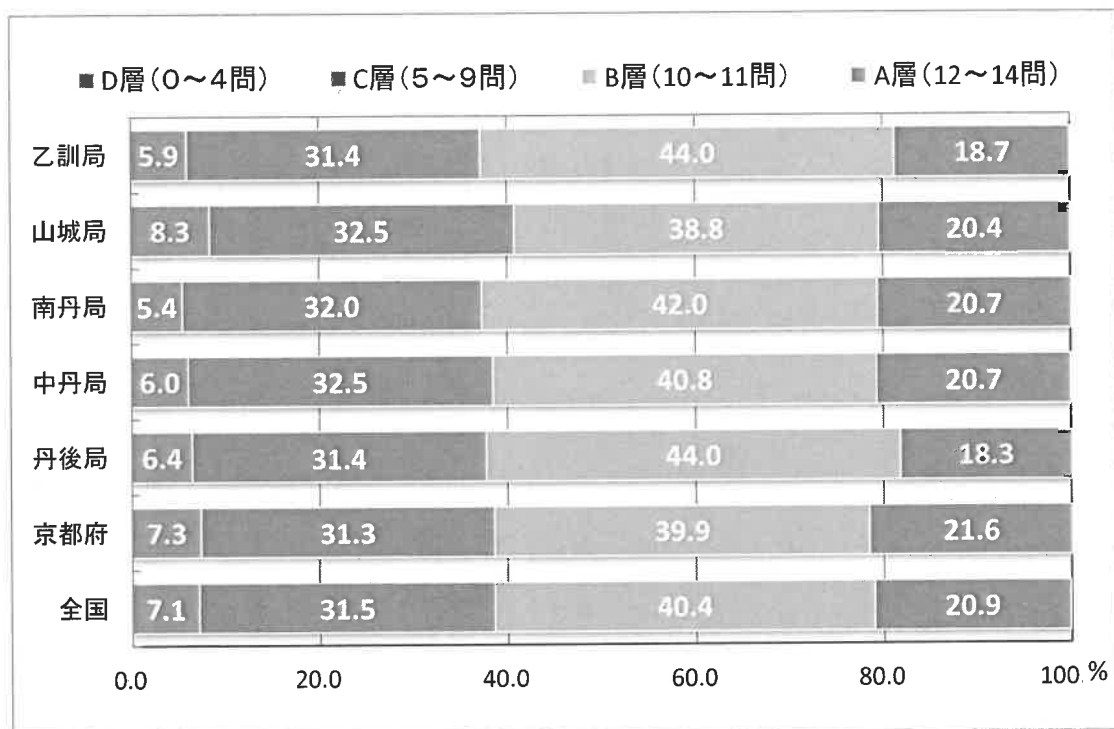


イ 算数



◆中学校第3学年正答数分布状況

ア 国語



イ 数学

